

ジョイント・クライシスプランの支援を通じた統合失調症患者と専門職との相互作用のプロセス — 専門職の体験に焦点を当てたモデル構築型事例研究 —

海老原樹恵

【目的】

JCP を活用して再入院することなく生活を継続する統合失調症患者を支援する専門職の体験から当事者と専門職との相互作用のプロセスを記述し、個別具体の事例分析から地域包括支援体制の中で多職種連携に活かせる支援モデルの構築を行う。

【方法】

研究デザインは、シンボリック相互作用論に理論的根拠を据え、個別性と多様性のある体験の意味を生成する事例研究と理論生成を目指す修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを結合したモデル構築型事例研究とする。精神保健・医療・福祉施設に勤務し、地域で生活を送る統合失調症患者の JCP を協働し支援をしている看護師・保健師、精神保健福祉士の 12 名を対象とし、半構造化面接（60 分程度）でデータ収集を行い、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた事例分析を行う。さらに、多職種連携に活かせるモデルの構築を行った。研究期間は倫理審査終了後～2019 年 5～9 月であった。

本研究は、聖路加国際大学倫理審査委員会の承認を得て行った（承認番号 19-A003）。

【結果】

対象者は看護師 6 名、精神保健福祉士 6 名の計 12 名であった。個別の事例検討では、JCP は、急性期から慢性期までの幅広い病態の当事者に用いられていた。JCP 支援での言葉の共有を通して【思いの共有から自他への信頼感を育む】や【ひとりの人としての自立を促していく】【意思表示と意思決定を促進する】関係性が構築され、【地域でその人らしく生活を維持する力】や【自分の力で生活してゆける実感を育む】、【目標に向けて他者と協力する】が引き出されていた。さらに、多職種連携による JCP の支援は、【JCP 支援を地域に広げる】【地域生活の目標を自分で創る】【社会の受け入れとつながりの促進】のは叩きかけとなっていた。

【結論】

本研究は、JCP を活用して再入院することなく生活を継続する統合失調症当事者を支援する専門職の体験から、JCP の協働によって、言葉に注目した相互作用から援助関係を構築し、現実感の回復で当事者のセルフケアと自律性を高め、危機対処スキルを用いて病気と付き合いながら生活を継続していく当事者の力を引き出すプロセスであった。また当事者と専門職との間の相互作用は多職種連携にも波及し、支援の個別性が多職種連携にも継承されることで、地域で孤立しがちな当事者に対する切れ目ない支援の提供による地域包括ケアシステムの支援モデルとなり得ることが示唆された。